

会議結果報告書

令和5年8月25日

会議の名称	第2回志木地区児童センター整備基本計画検討委員会
開催日時	令和5年7月24日（月）午後6時30分～午後8時18分
開催場所	志木市役所 3階 大会議室3-3
出席委員	垣野委員長、鈴木委員、津田委員、佐藤委員、竹前委員、川村委員、松澤委員 (計7人)
欠席委員	大熊委員 (計1人)
説明員職氏名	平間子ども支援課主査 (計1人)
議事概要	1. 開会 2. 議題 ・志木地区児童センターにおける施設コンセプトについて 3. その他 4. 閉会
結果	審議内容の記録のとおり (傍聴者なし)
事務局職員	近藤子ども・健康部長、飯田子ども支援課長、平間子ども支援課主査、松永子ども支援課主任、神新複合施設建設推進室主任

審 議 内 容 の 記 録

1. 開会

垣野委員長より開会を告げる。

2. 議題

・志木地区児童センターにおける施設コンセプトについて
事務局より、資料に基づき概要を説明した後、「3. 施設整備の意義」「4. 整備の基本方針」「7. 新施設に求められる役割」について検討を行った。

【質疑】

(「3. 施設整備の意義」「4. 整備の基本方針」について)

委員長：まず「3. 施設整備の意義」「4. 整備の基本方針」について整理を行いたい。意見等はあるか。

委員：「子どもたちが安心して過ごせる」とはどのようなことか。志木市には、放課後志木っ子タイムがあり、子どもたちが安心して過ごすことができる、子どもたちが主役になれるというは放課後志木っ子タイムが既に担っているのではないか。

こうした状況の中、児童センターを整備する意義や、放課後志木っ子タイムとの棲み分けを打ち出していく必要がある。

事務局：放課後志木っ子タイムを利用しない子どもたちや、配慮が必要な子どもたちも取り込んでいきたいと考えている。また、子どもの居場所は小学生に限らず課題となっているので、居場所の選択肢を増やしたい。

委員長：児童センターは0歳から18歳未満までが対象となり、その保護者さらには地域の方も集まるようなことが想定されるので、公民館的な位置づけの要素も入ってくるのではないか。

事務局：児童センターは、小学生と中学生の交流など異年齢や地域の方との交流があることが、学童保育クラブとの違いであると考えます。また、学童保育クラブは、同じ学校の子どもたちの集団となるので、その集団に加わりにくいと感じる子どもたちがいるかもしれない。加えて、他校の子どもと遊びたい場合は、児童センターに集まって遊ぶことができる。一方、一人で来ても児童センターの職員が主導となり、声掛けすることで、学校の枠を超えた子どもたちの新たな交流が生まれるのではないかと考える。

委員：異年齢の交流も大切だと思う。

委員：中学年、高学年になるにつれて、放課後志木っ子タイムを利用しなくなる傾向があるように感じる。

委員：児童センターがあれば、フリースペースに集まることを約束する中学年、高学年が増えるのではないか。

委員：既存の児童センターが宗岡にあるが、自分の子どもたちは利用しようとはならなかった。また、中学生が利用できることも知らなかったなので、情報の周知が必要であると感じる。

また、志木市は地域ボランティアが盛んであり、子どもたちと積極的に関わりを持ち、子どもの成長と一緒に喜んでくれる方が多いと感じているので、児童センター職員などの専門家に相談するだけでなく、地域の方と関わりが持てる場所になるとよい。

委員長：既に「7. 新施設に求められる役割」についての議論が展開されているので、このまま検討を進め、「7. 新施設に求められる役割」を整理した後、改めて「3. 施設整備の意義」「4. 整備の基本方針」について整理していきたい。

（「7. 新施設に求められる役割」について）

・新施設に求められる役割について、ワークショップ形式で、検討を行った。

委員長：新施設が「～な場所であってほしい」「～というものが備わった施設であってほしい」という観点で検討していただきたい。

<主な意見>

【遊び】

- ・遊びを提供する場所（刺激）
- ・天候が芳しくないときでも体を動かして遊べる場所
- ・好きなことができる場所

【多世代交流】

- ・子どもから大人まで多世代が交流できる場所
- ・世代を超えた友人ができる
- ・仲間と集える場所
- ・おじいちゃん先生、おばあちゃん先生がいる

【自習・学習支援】

- ・中高生が静かに自習できる自習室を備えた施設

- ・パソコンやタブレットの貸し出しがあるとよい

【くつろげる・リビング】

- ・学校に行けない中学生の居場所（日中も活用させたい）
- ・誰もがくつろげるフリースペースのある場所
- ・雨の日や夏休み等の居場所づくり
- ・インクルーシブ（外国籍、障がい児）、誰もが気軽に集える場

【食堂】

- ・子ども食堂
- ・子ども食堂が出張営業してくれる場所
- ・フードバンク・フードドライブを兼ね備え、人目を気にせず、誰もが支援を受け取ったり、支援のサポートをできる場所

【相談】

- ・未就学児の発達相談
- ・誰かと話せる場所（相談）、同じ悩みを持つ保護者同士

【出会い・イベント】

- ・毎日何かのイベントがある
- ・体験事業を企画
- ・子育てママ同士の交流
- ・子どもたちの絵画などの作品がたくさん展示してある

【情報】

- ・3年先の子どもに必要な情報がわかる（今後の進路についてなど）
- ・市役所（子ども支援課、子どもと家庭の相談室）の職員派遣
- ・各学校の情報が集まるステーション
- ・地域の子育て情報を得られたり、悩みに応じて必要な地域資源につないでもらえる場所

【安全】

- ・防犯、警備体制が整っている場所
- ・幼児が安全に遊べる

委員長：他の委員の意見を聞いて、追加等あるか。

委員：宗岡にも中高生が集うことができる場所ができるとうい。

委員：家の近くで女子高生が音を小さくしてダンスを練習している光景を目にすることがあるので、気兼ねなく音を出せる場所になるとよい。

委員：学校に行けない子どもたちも集えるようになるとよい。

委員：今回出た意見を全て取り込むことは難しいので、どこかにフォーカスすべき。小さい市だからこそ、フォーカスできることがあると思う。

委員：運営する職員によって変わってくる。子どもたちと年代が近い職員がいると異年齢の交流にもなるのではないか。

委員長：これまでの検討を踏まえ、改めて「3. 施設整備の意義」「4. 整備の基本方針」の検討を行いたい。

（「3. 施設整備の意義」について）

委員：議論を経て再度意義を見ると、内容は網羅されていると思うが、初見で見ると、どこにでもある児童センターができるように感じる。意義を見たら期待が持てるような表現にしたらよいのではないか。この表現を変える、変えないというよりも、どこかにフォーカスして根本を考えた方がよいのではないか。

委員：「相談」という言葉が入っているが、広い意味で言うと、悩み事や困り事を共有する、そして、そこからお互いに何かを得るという意味ではないか。しかし、「相談」という表現は少し重いように感じる。

委員：「情報共有」や「情報交流」としてはどうか。

委員長：何にでも通用するような表現ではなく、今回新しく整備する児童センターに当てはまる意義になるとよい。

（「4. 整備の基本方針」について）

委員長：「4. 整備の基本方針」についてはどうか。

委員長：これまで皆さんから出た意見を踏まえると網羅されているように感じる。

委員：完全な「安全」「安心」というもの難しい。それよりも、「自分らしく過ごせる」とした方がよいのではないか。

委員：今回の整備に当たって、志木市らしいコンセプトを事務局として持っているのか。

事務局：志木市らしさを皆さんにご検討いただきたい。小さい市であり、活用できる土地もないことから、コンパクトな施設の中でも志木市らしさを出していきたい。

委員：小学生の居場所は、放課後志木っ子タイムがあるので、他市と比較して充実していると思う。そうしたことから、中高生や不登校の子に焦点を当ててはどうか。他市ではあまり行っていない取組ではないか。

委員：児童センターは0～18歳未満の子どもたちが交流できる場なので、小学生を含んでもよいと思う。

委員：子どもたちは場所を与えられても、それをリードする、イベントを企画する大人がいれば、異年齢の交流も生まれてくるのではないか。

委員：悩み事を相談するだけでなく、共有、交流、交換というキーワードが出てきた。また、「子どもたちが主役」というよりも「子どもたちが自分らしくいられる」という表現の方がよいと思うので、意義も方針も今日の意見を踏まえて、うまく変えられるとよい。また、基本理念が内容と合っていないように感じるので、本日の議論を踏まえ、うまく変更していただきたい。

委員長：基本理念は案としてお示しした。具体的な検討は次回行う。本日の議論を踏まえ、「7. 新施設に求められる役割」を整理し、次回もう一度「3. 施設整備の意義」「4. 整備の基本方針」について検討を行う。

3. その他

次回の会議は、8月25日（金）18時30分からを予定している。

4. 閉会

垣野委員長が閉会を告げる。